

1 題材名 かたち・いろ・ことばから思いうかべて

2 本題材の目標

- (1) 自分の感覚や行為を通して、形や色の感じ、組み合わせによる感じなどが分かる。水彩絵の具を適切に扱うとともに、前学年までのクレヨン、パスついで経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。(知識及び技能)
- (2) 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、物語や詩を読んで感じたことや想像したことから表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考える。形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 進んで物語や詩から想像を広げて絵に表したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 自分の感覚や行為を通して、形や色の感じ、組み合わせによる感じなどが分かっている。 技 水彩絵の具を適切に扱うとともに、前学年までのクレヨン、パスについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。	発 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、物語や詩を読んで感じたこと、想像したことから表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 鑑 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	態表 つくりだす喜びを味わい進んで物語や詩から想像を広げて絵に表す学習活動に取り組もうとしている。 態鑑 つくりだす喜びを味わい進んで物語や詩から想像を広げて表した絵を鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。

4 題材について

(1) 教材観

本題材は、自分で選んだ物語や詩の言葉から想像を広げ、水彩絵の具で絵に表していく。物語や詩を読んで捉えた形や色、イメージなどを基に表したいことを思い付き、表し方を考える。そして、自分の思いを基に水彩絵の具で表し方を工夫し、活動を充実させる。その後、完成した作品を校内に展示し、異学年と共に鑑賞する。作品を活用した交流によって、生活をもっとこうしたいという夢や願いをもつことのできる題材である。

(2) 児童観

本学級の多くの児童は、視覚で捉えた色の感じには気付いている。しかし、一人一人の経験に基づいて想像し、色の感じを基にイメージが広がる児童は少ない。また、色や筆遣いから表したいことを考える題材では、児童の振り返りの記述と作品を分析すると、自分の思いと色に乖離が生じてもつくりかえる活動まで発展させず、活動が充実できなかった児童が多いということが分かった。さらに、意識調査では、「図工でつくった作品をどこに飾りたいですか」という質問に対し、「なんとなく」「飾るから」といった回答をした児童が数名おり、作品を飾ることへの願いが広がらない実態があった。「誰に紹介したいか」の質問に対しても、「友達」「家族」と答えた児童が多数おり、普段から身近に関わっている環境や人以外への広がりがなく、児童が作品によって「もっとこうしたい」といった夢や願いをもてていないという実態がある。

(3) 指導観

本題材では、図画工作科の授業と読書活動や異学年交流とを関連させ、多様な他者との交流を

設定する。まず、題材と並行して継続的にアニメーションの手法を取り入れた絵本の読書活動を行う。教師や図書司書との対話から想像力を引き出したり形や色を楽しんだり絵で表現したりする等、児童のイメージの広がりにつながるような活動を設定する。形や色に着目した言葉で他者と交流することによって、言葉とイメージとの結びつきを増やすようにする。本題材の絵に表す活動では、対話をする場や多様な種類や大きさの紙で試行錯誤できる場を設定する。児童同士が交流しながら表し方を学ぶ場にするすることで、自分の思いを基に表し方を工夫し、充実した活動ができるようにする。そして、完成後は作品を校内に展示し、異学年の児童や教師と鑑賞する交流活動を設定する。普段関わりの少ない他者からの多様な意見から、作品を飾ることや紹介することに楽しみを見いだせるようにする。

これらのように多様な他者と交流する活動を工夫することで、言葉とイメージとの結びつきが増え、思いを基に表し方を工夫し、楽しく豊かな生活を創造しようとする夢や願いをもち、言葉からイメージをもって創造的に表現する力を育むことができると考える。

5 題材の指導計画（7時間扱い）

○は指導に生かす評価場面の始まり、◎は記録に残す評価場面

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価及び評価方法等	アニメーション（実施時間）
1	1	 どうしたらイメージが広がるかな。 - 物語や詩を聞いて、様子や気持ち、雰囲気をイメージする。 - イメージしたことと、形や色の感じ、組み合わせによる感じとを結び付ける。 - 言葉からのイメージを形や色で絵に表す。  言葉を形や色で表したらイメージが広がる。			○表	表：進んで言葉から想像を広げて絵や言語に表す学習活動に取り組もうとしているかを見取り、していない児童には形や色の気付きを促す声かけをする。【発言、活動の様子】 発：物語や詩の言葉からイメージをもっているかを見取り、できていない児童には、感じたことを書き留めるよう促す。【ワークシート】 知：言葉からイメージする活動を通して、形や色の感じ、組み合わせによる感じなどが分かっているかを見取り、できていない児童には言葉の感じを絵や文でメモを取るように声をかける。【活動の様子、ワークシート】	アニメーション（実施時間） 「どんな色？」WHAT COLOR?」 ・形や色からイメージする（朝読書） ①作者について簡単に伝える。 ②絵本のスタイル（しかけ絵本）について説明する。 ③色の丸からどんなことをイメージするか問う。 ④児童がイメージした形や色につながる本を紹介する。
2	2	 想像したことを形や色で表すには、どのようにしたらよいだろう。 - 表したい本を選ぶ。 - 想像した様子や雰囲気を、水彩絵の具やパス等で表す。 - 表したいことに合わせて用具を選んだり、試したりしながら表す。 - 活動途中の作品を見合い、互いの表し方のよさを感じ取る。 - 友達との交流をヒントにして自分なりに工夫して表す。			○発	発：自分のイメージをもちながら、表したいことを見付け、どのように表そうか考えているかを見取り、できていない児童にはいろいろな技法による着色例を示す。【ワークシート】 技：水彩絵の具を適切に扱い、表したいことに合わせて表しているかを見取り、できていない児童には色を試したり練習したりするよう声をかける。【活動の様子、作品】	「しろくまのパンツ」 ・絵で表すことを楽しむ（国語） ①読み聞かせをする。 ②話を振り返り、パンツにはそれぞれの動物の好物が描かれていたことを確認する。 ③くじを引き、どの生き物のパンツを描くか決める（ほかの人には秘密にする）。 ④パンツに柄を描くよう促す。 ⑤どの生き物のパンツが当たるゲームをする。
	3				○鑑	鑑：自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げているかを見取り、できていない児童には工夫したところを発表し合う場面を設定し、自他の感じ方の違いや表しつつあるもののよさや面白さを伝え合えるようにする。【活動の様子、振り返り】	「てんぷらびりびり」 ・言葉から形や色をイメージし表す（国語） ①班ごとに詩を配る。 ②挿絵がどの言葉や文を表しているか伝え合わせる。 ③挿絵の描かれていない詩にはどんな挿絵を描くか、一人一人に考えるよう促す。 ④絵を描き班で発表する。
	4						「あのやまこえてどこいくの」 ・言葉からイメージし形や色で表す（国語） ①冒頭を読み聞かせする。 ②買ったものの使い道を考え、班で画用紙に描くよう促す。 ③班ごとに発表する。 ④最後まで読み聞かせをし絵本の中の使い方を紹介する。
	5	自分の作品への思いをワークシートに書く。  想像したことを表すには、形や色を何度も試すと表すことができる。			◎技	技：【活動の様子、作品、振り返り】 発：【活動の様子、振り返り】	「にじいろのさかな」 ・形や色からイメージを広げ表す（国語） ①読み聞かせをする。 ②出てきた色を質問しながらストーリーを振り返る。 ③同シリーズの本の魚の形について確認をする。 ④にじいろの魚の仲間の魚を考え描くよう促す。

3	6 本時	目標：自分の感覚や行為を通して、形や色の感じ、組み合わせによる感じなどが分かる。 課 みんなで見たらどんな感じかな。 ・校内に展示された作品で鑑賞会をする。 ・5年生を図書室に案内する。 ・グループで作品について紹介し、5年生の児童から感想をもらう。(2回実施) ・展示全体を自由に鑑賞し、5年生や友達と交流する。	◎知	◎鑑	鑑：進んで鑑賞する学習活動に取り組もうとしているかを見取り、していない児童には、自分の作品に対する思いや意図を伝えるよう声かけをする。【活動の様子、ワークシート】 知：【ワークシート】	「銀河鉄道の夜」 ・見方や感じ方、表し方は人それぞれ違うことに気付く(朝読書) ①一場面の読み聞かせを行う。 ②同じ場面の挿絵を複数見せ、違いやよさを発表させる。 ③他の作品を紹介する。
		【第5学年 図画工作】 1 3年生とのグループ内交流を2回行う。 (1) 3年生が描いた「かたち・いろ・ことばから思いうかべて」の作品を、グループで鑑賞する。 (2) 言葉(語彙)カードを参考にしながら、3年生に自分の感じたことや思ったことを伝える。 (3) 3年生の思いや意図を聞き、感じたことや思ったことを鑑賞カードに書く。 2 展示全体を自由に鑑賞する。 (1) 気になった作品について感じたことや思ったことを鑑賞カードに書く。				
	7	・鑑賞会を対話で振り返り、本時は友達と鑑賞することを確認する。 ・対話の中で学校に飾られた作品にも気付く。 ・作品づくりや異学年鑑賞会について振り返りをする。 課 みんなで見ると見方や感じ方が広がる。	◎知	◎鑑 ◎表鑑	鑑：【ワークシート】 態：【活動の様子・ワークシート】	「ヤンときいろいブルブル」 ・絵本の続きを想像し表す(国語) ①読み聞かせをする。 ②絵本の最後の1ページを想像して描かせる。 ③自分の描いた1ページを友達に紹介する。
授業外			◎知 ◎鑑		知技：【ワークシート・作品】 鑑：【ワークシート】	